

試験研究の推進のために

加 納 博

去る5月20日付で場長を命ぜられ、その責任の重大さに緊張を覚えるとともに、全力をあげて職務を果たして行きたいと考えております。まず場内の諸君の支持をお願いし、さらに、各位の御支援を戴きたいと願っています。

就任に当り、試験研究の推進のために、日頃考えていることを述べて所信としたい。

私たちの職場は地方自治体の機関であるから、地方林政を推進するために必要な試験研究を任務としている。従って、研究テーマは地方林政のニーズに対応するものから選択している。このことは、当场開設以来の研究テーマを通覧することによって、その時代における地方林政の問題点が何であったかをうかがうことができることから明らかであろう。

しかし、ここで考えなければならないのは、林政のニーズをどのように把握するかということである。何故なら、地方林政の方向は予測が困難といった事情があり、林業の生産活動は、木材価格の変動によって左右されてきたばかりでなく、土地利用、林地所有の影響をも受けてきたからである。従って、ニーズを予測すること自体にむづかしさがある。このように、ニーズは必ずしも明確でなく、不確実性を伴っているから、試験テーマの選択に当りまず第1に、ニーズと考えられるものの長期・短期の区分を考慮し、第2に、緊急度を優先順序の採択基準とする必要がある。さらに、つけ加えたい点は、研究成果が得られた時点で、その意義が失われるおそれがないかどうかをも想定して、先見性を取入れることであろう。

私たちの試験場は林木育種事業所として開設して以来26年になるが、民有林の振興のためにその間多くの研究テーマを手がけてきた。最も歴史の長い育種研究では、カラマツ、グイマツ雑種などの優良種苗の生産技術、トドマツ種子の産地特性などの成果をあげてきた。また、カラマツの立地区分、海岸林の造成技術、病虫害防除技術などにも行政のニーズに応じて成果をあげてきた。しかし、試験研究は未知なるものへの取組みであるから、一方では、試行錯誤が伴うのは必然であろう。道外樹種の導入試験がその例にあげられ、また除草剤適用試験は成果の普及が困難な事情になった例もある。

以上述べたことから、試験研究はテーマの設定そのものが重要な選択であるが、次の段階では、解決するための組織、施設、研究員の能力、必要経費、そして期間など総合的な条件が必要である。私は、それぞれについて点検することによって、有意義な成果が多く得られるよう努力していきたい。特に、期間の長くかかるものは早期に着手する必要がある。長期の測定にまたねばならぬ試験地の設定などはこの例に当るであろう。これまでに蓄積された試験場の総合的な条件を、さらにレベルアップして試験研究を推進し、地方林政の発展のために、各位の期待に応じてゆきたい。

(場 長)